

## 「ベトナム社会科学院・ハノイ国家大学サマースクールプログラム参加報告書」

京都大学総合人間学部2年 古市秀和

今回のプログラムを通して、私の中で一番大きく変わったことは、他者とコミュニケーションをとることに對して多少なりとも積極的になれたことだと思います。現地の学生たちと交流するのは、最初はとても大変でした。はっきりと意味が聞き取れず、またうまく話題をふることもできず、曖昧な笑みを浮かべることしかできなかったのは、本当に情けなく、申し訳なかった。でも、一緒に行った先輩たちがどんどん現地の人たちと仲良くなっていくのを見て、とても羨ましく思い、思い切って話しかけてみると、だんだん現地の人々の興味を持つことなどが分かってきて、最終的には沢山の学生たちと友達になることができました。そういう意味では、現地の人だけでなく、一緒に行った日本の先輩たちにも強い刺激を受けたように思います。

それと、私は今回が初めての海外渡航だったのですが、始めて異文化というものを実感をもって経験することができました。具体的に言うと、ブンチャ、フォーなどの食事やバイクの交通量、住居の様子などです。やはり見るのと聞くのでは大違いで、今までもっていた「日本と外国の文化は違う」という当たり前の知識が初めて自分の中で身を結んだように感じました。

そしてもう一つ、知識が実感に変わったことがあります。それは、自分は日本のことを全然知らないということです。逆に日本のことについて現地の人に教えてもらう始末で、すごく後悔しました。日本についてもっと知らなくてはという、焦燥にも近い感情を持たれたことも、今回のプログラムの収穫だと思います。

さて、最後に今回のプログラムを終えて、これからの目標について考えてみました。このような異文化交流は、当たり前と思っていたことをそうではないと気付かせてくれ、自分の視野を広げる上でとても大切なものだと分かりました。なので、このような異文化交流は、人生を通して続けていきたいなと思います。ただ、生来自分はあまりアクティブではありません。一年中外国を飛び回るようなことは無理だということも今回のことではっきりわかりました。ゆえに、このような国際理解への取り組みは、仕事というよりも趣味としてやるようになるかなと思います。

このように、進路については不透明なままですが、在学中に関して言えば、一つ目標ができました。それは、もう一度留学へ、できれば一ヶ月以上の期間で行くことです。欲を言えばヨーロッパに行きたいです。今回のベトナムでも沢山の新しい発見があったけれど、やはりアジアは同じアジアでした。肌の色から何から違う文化圏に行くことは、自分にとってとても刺激になると期待しています。また、先進国諸国が今の日本周辺についてどう思っているのかも興味があります。

自分は2回生で、院に行く予定もないので、もうあまり時間がありません。さしあたっては留学に関する情報を集めつつ、英語の力を蓄えようと思います。